

行政調査報告書「防災対策強化特別委員会」

平成 26 年 10 月 29 日（水）～31 日（金）

■兵庫県西宮市『被災者支援システムについて』

被災者支援システムは、阪神・淡路大震災の際、西宮市庁舎も大きな被害を受けたが、職員自らがシステムを構築したことで、被災者、復旧・復興支援業務に大きな力を発揮した。このシステムは、被災者の情報を管理する被災者台帳、被害を受けた家屋情報を管理する被災住家等台帳の 2 つのシステムで構築されており、災害時に刻一刻と変化する被災状況を記録することができ、被災者への、罹災証明書や義捐金の給付等の管理も行える。本市においても、早急に導入し、今後起こりうる大震災に備えていきたい。



■かんさい生活情報ネットワーク協議会『かんさい生活情報ネットワークについて』

この協議会は、災害時に、電話や F A X などの通信手段が利用できなくなる状況下で、迅速に必要な情報を得ることを目的に、平成 25 年に発足した。ガス、水道、鉄道関係者、報道機関等の事業者、自治体、専門家など約 100 団体が加盟し、インターネットで情報の入力・閲覧ができる。異業者間での情報提供が企業や事業者単位で行えることで、成果が期待できるが、個人利用者の加入ができない、情報の信頼性や即時性に関しては、今後の課題であると感じた。

■神戸市危機管理センター『神戸市危機管理センターについて』

当センターは、危機発生時の初動体制と危機管理情報の共有体制の強化を図るため、平成 24 年に供用開始した。このセンターは、免震構造で、センター内には、危機管理局、消防局、水道局があり、非常用発電機、オペレーションセンターなど、あらゆる分野での危機管理体制の構築がされている。また、防災展示室・研究室では、市民が気軽に防災について学べるようになっている。本市においても、災害時の初動体制は重要であるため、今後の参考にしていきたい。



■神戸市立地域人材支援センター『神戸市立地域人材支援センターについて』

当センターは、阪神・淡路大震災の際に避難所となった旧二葉小学校の校舎を改修して誕生したコミュニティ施設である。子育てから教育、ロボット工学まで多岐にわたる分野での活動拠点、また、文化講座・体験学習の実施による交流、学びの場の提供をするなど、歴史・文化・ものづくりを通して、地域活性化を担う人材育成を目指している。センター内には、震災展示スペースが設けられており、市内の小中高校生や修学旅行生や職員研修、大学生、一般の観光客等に対して、震災体験学習を実施している。阪神・淡路大震災がストーリー化されたスライドによる学習や講堂での避難所生活を実際に体験することで、震災を経験していない世代にも被災者の記憶が引き継がれ、地域防災力の強化が図られていた。

